

各新聞など情報誌の記事をピックアップして掲載しています。
木のこと、経済、福祉、災害、エコ、住まいなど、色々な話題です。

令和4年 2月のHPきごころ通信 (先月の話題)

目次

- (1)  家庭内でも減る「共食」 生活習慣ずれ、1960年代から
- (2)  大阪湾つなぐ新航路開拓 万博へ自治体や企業連携
- (3)  大阪の中心 広がる歩道 難波駅周辺 御堂筋 中之島公園
- (4)  国内の書店、20年で半減 個性ある店 根強いファン
- (5)  東京離れ コロナで加速 23区、初の転出超過
- (6)  鹿島、3%賃上げへ 業績堅調で社員処遇改善
- (7)  大阪府、7年連続転入超 昨年、神戸市は初の転入超

(1) 家庭内でも減る「共食」

生活習慣ずれ、1960年代から

*家族が別々に食事するライフスタイルが広がり始めたのは、1960年代に遡ります。

・会社員の長時間労働や子供の習い事が一般化し、家庭内でそれぞれ違った生活リズムが生まれました。

*1970年代にはレトルト食品も普及し、同居していてもメニューはばらばらの食事スタイルが取り入れられ、女性の社会進出に伴いこうした傾向は加速していきました。

*好きなメニューなどに偏る食事が多くなるため、肥満による生活習慣病と、低栄養の問題が深刻化。

・20代女性の1日当たり平均摂取エネルギーは2019年、1600キロカロリーで年々低下傾向。

(2022年1月6日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(2) 大阪湾つなぐ新航路開拓 万博へ自治体や企業連携

関空—夢洲など検討 観光資源としても注目

*2025年の国際博覧会(大阪・関西万博)を見据え、関西で大阪湾岸の拠点を経る新航路の開拓が進み始めました。

*万博会場となる人工島・夢洲から淀川航路で京都をつなぐ構想が動き出したほか、神戸港や関西国際空港を発着する定期航路開設の計画も浮上。

各新聞など情報誌の記事をピックアップして掲載しています。
木のこと、経済、福祉、災害、エコ、住まいなど、色々な話題です。

*大阪湾の水上交通は、以前から鉄道や自動車に代わる「第3の道」として期待が高まっていました。

*想定では、万博来場者は1日最大28万5千人。

*観光要素も取り入れた水上輸送で富裕層やビジネス客の需要を取り込む狙いです。

(2022年1月7日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



(3) 大阪の中心 広がる歩道

難波駅周辺 御堂筋 中之島公園

*多くの観光客が見込まれる2025年の万国博覧会（大阪・関西万博）の開催を控え、大阪で歩行者空間を広げる街づくりが進んでいます。

☆大阪市内の歩行者空間の活用の取り組み

●御堂筋

*2025年までに側道を歩道化、2037年までに全車線を歩道化

*一部の工事完了区間で、レンタサイクル設置などの社会実験

●中之島公園

*2021年4月に園内を横切る道路の歩道化が完了

*テラス設置などのイベントを2021年11月に実施

●難波駅周辺

*2025年までに道路・ロータリーを歩道化

*2021年11~12月に社会実験。2022年度中に本格工事開始

*国土交通省が2018年に公表した全国68都市のデータに基づく調査によると、都市の歩行者量が増えるほど床面積当たりの売上高が上がるといいます。

*国は2020年11月、道路の車線数を減らして歩行者に開放し、公募で選ばれた事業者がそこを最長20年間使用できるようにする「歩行者利便増進道路（ほこみち）」制度を創設。

・2021年12月時点で全国49箇所がほこみちに指定されています。

・幅44mのメインストリート、御堂筋は同制度で最初に指定された場所の一つ。

(2022年1月20日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



各新聞など情報誌の記事をピックアップして掲載しています。
木のこと、経済、福祉、災害、エコ、住まいなど、色々な話題です。

(4) 国内の書店、20年で半減

個性ある店 根強いファン

*国内の書店数は2020年5月時点で11,024店で、2000年の21,654店から半減。

*電子書籍の普及や電子商取引サイトの台頭などで、書店を取り巻く環境は厳しく。

*「独立書店」と呼ばれる個性派の店舗は近年増えつつあります。

*2016年に6店だった新規開業が2021年には51店に達しました。

*異業種の参入もあるといいます。

(2022年1月24日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(5) 東京離れ コロナで加速 23区、初の転出超過

2021年人口移動報告

山梨や茨城、流入広範に 移住、働き盛りの30代も

*東京23区は比較可能な2014年以降で初めて域外から転入した人数を転出者が上回る「転出超過」となりました。

*東京都全体では「転入超過」でしたが、超過幅は2年連続で最低を更新。

*東京都からの転出は414,734人と、2020年から13,000人近く増えました。

・埼玉、千葉、神奈川の3県への流入が5割超。

*2021年10月調査で、テレワーク実施率は2割程度。

*「東京圏」では30~34歳が、比較可能な2014年以降で初めて転出超過。

*山梨県への転出は2020年比で14%増。茨城6%、群馬2%増。

*東京、大阪、福岡の3都府県は、転入超過が縮小。

*移住先の情報を提供するふるさと回帰支援センターによると、2021年の移住相談件数は49,514件で過去最高。

(2022年1月29日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



各新聞など情報誌の記事をピックアップして掲載しています。
木のこと、経済、福祉、災害、エコ、住まいなど、色々な話題です。

(6)  **鹿島、3%賃上げへ 業績堅調で社員処遇改善**

*鹿島は2022年度の社員の賃金を、基本給のベースアップ（ベア）と定期昇給などで3%引き上げる方針。2017年以来5年ぶり。

*建設業では就業人口減が深刻。

・2000年の653万人から2020年には492万人と25%減。

*高齢化も進んでいて、2020年には55歳以上が36.0%に上る一方、29歳以下は11.8%。

(2022年1月29日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(7)  **大阪府、7年連続転入超 昨年、神戸市は初の転入超**

*大阪府が7年連続で転入者が転出者より多い転入超過。

*神戸市が比較可能な2014年以降、初めて転入超過。超過数は2020年比36.9倍の1034人。

*京都府は3874人、兵庫県は5344人、奈良県が1316人、和歌山県が1952人の転出超過。いずれも8年連続での転出超。

*大阪市が8年連続で転入超過。超過数は2020年より8909人少ない7993人で、5年ぶりに前年の超過数を下回りました。

(2022年1月29日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

